

## 1 基本理念

水に関わる諸施策を進めるにあたっては、水が本来有している特性を十分に認識し、利用と保全の調和に努めなければならない。

具体的には、以下の5項目を基本理念とし、水源、治水・利水、水環境、水文化<sup>※</sup>等の諸施策を推進する。

### (1) 水は、大気と陸地、海洋の間を循環して、繰り返し利用される資源である。

- ▶ 水は、大気と陸地、海洋の三つの間を循環して、繰り返し利用されるが、地域の自然条件や季節によって地理的かつ量的に偏りがある。
- ▶ 水の循環過程を損なうことのないよう、水源である森林や山地の保全、地下水の涵養<sup>かんよう</sup>、水質の保全等、健全な水環境の維持、創出に努めなければならない。

### (2) 水は、上流から下流に及ぶ広域的で公共性の高い資源である。

- ▶ 水利用は、水源域である上流域から下流域に至るまで連続的な構造を持ってなされる。流水や水質の管理は、上流域から下流域まで一貫した対策を必要とする。
- ▶ 水は、地域的に偏在し、有限な資源であり、社会的な共有物としての性格を持っている。
- ▶ 水は、流域を単位として公共性の高い資源であり、広域的、計画的に管理しなければならない。

### (3) 水は、巨大なエネルギーを持った存在である。

- ▶ 富山県は急峻な山岳地帯が多く、梅雨や台風時には、山崩れ、土石流、洪水等により、田畑や家屋の破壊、多くの人命が奪われてきた。
- ▶ 水は水力発電や生活用水として、水辺はレクリエーションの場などとして活用されているが、時には危険な側面を持っており、備えを怠らないように努めなければならない。

### (4) 水は、ふるさとの大地や自然、生命、文化の創造主である。

- ▶ 水は、大地を刻み、荒々しい流れが段丘や平野をつくってきた。
- ▶ 様々な生物にとって生存が保障され、生態系の健全性が維持される水域であるよう、自然豊かな水環境の保全、創出に努めなければならない。
- ▶ 富山湾から間近に仰ぎ見る雄大な景観、水の流れが作りだす変化に富んだ地形、そこに息づく自然は、心のふるさととして潤いと安らぎを与える。
- ▶ 水は、人々の日常生活に欠くことのできないもので、健康の元となるものである。日々の生活や水に係わる祭事や生き物等を通じて、地域での様々な水文化を創り上げてきた。

### (5) 水は、時代や国境を越えて受け継がれる財産である。

- ▶ 水は、太陽のエネルギーと地球の重力によりたえず地球上を循環しており、人々は、昔から変わることなく繰り返されているこの大きな循環の中で水を利用している。
- ▶ 水は、人々が共有する貴重な財産であり、水を使うものは水を創るという考え方を大切に、次の世代に引き継いでいく責任がある。

## 2 将来像

水ビジョンの目指す将来像は、

「恵みの水が美しく循環する“水の王国とやま”」とする。

- ▶ 豊かな水の恵みを受け、暮らしのいたる場面で水を利用し、「水の王国とやま」を築いてきた富山県。現在のように水の恩恵を受けられるようになったのは、水との闘いを通して治水に励み、用水を切り開いた先人たちの努力の賜物である。
- ▶ しかし、近年、わたしたちは、快適で便利な生活を追及するあまり、水が育んできた美しい自然環境を損なってきたことも否めない。
- ▶ 水は地球上すべての生物が共有する、限りある資源であることを再認識し、水の利用を自然の営みのなかに調和させていかなければならない。
- ▶ また、水を大切に思い大切に使うことや、水に生きる生き物を次世代に引き継いでいかなければならない。
- ▶ このような認識のうえに、わたしたちは、恵みの水が、多様な県土を自然のリズムで、人間社会の多彩な営みと調和しながら、活かされ、美しい循環系を担うことを目指す。

## 3 基本目標

将来像「恵みの水が美しく循環する“水の王国とやま”」を目指すため、以下の三つの基本目標を設け、水に関わる各種施策の積極的な展開を図る。

### (1) 豊かな水を活かし健全な水循環系の構築をめざす。

- ▶ 大気から大地、河川等を経て海域に向かう水の循環は、河川や地下水の水量の確保、水質の浄化、水辺環境や生態系の保全に大きな役割を果たしている。
- ▶ 流域全体を視野に入れた水循環系の健全化に向け、豊かな水を活かし人間の諸活動と水循環系との調和を図るため、水源、治水・利水、水環境の対策を推進する。

### (2) 地域に根ざした水文化・産業を継承し発展させる。

- ▶ 先人から引き継がれてきた水文化の衰退、水に触れる機会の減少が問題となっており、水を大切にする意識を育み、水文化の継承と発展を図る。
- ▶ ・豊かな水の恵みが、日本海側屈指の産業集積やおいしいコシヒカリや富富富などの富山米やお酒などの地場産品を育成してきており、さらなる発展を図る。

### (3) 未来を展望し地球的規模の水問題にとりくむ。

- ▶ 地球的規模の水問題（地球温暖化、酸性雨、異常気象等による水危機、仮想水問題※）の進行が危惧されてきている。
- ▶ 地球的規模の水問題の解決に向けて、水に関する調査研究や保全活動、啓発普及など富山の取り組みを国内外に発信する。

## 4 施策の展開

### (1) 施策展開の考え方

健全な水循環系を構築し、水文化の継承・発展や安心できる水利用社会を実現していくため、以下の「人づくり」「地域づくり」「仕組みづくり」の視点から、各種施策を推進していく。

#### ① 健全な水循環系の構築を担う「人づくり」の推進

- ① 健全な水循環系の構築を担う人づくりを推進し、県民の知恵を生かし、地域に密着したきめ細かな取組みの展開を図る。
- ② 健全な水循環系の構築に積極的に取り組む県民を適切に評価し、県民の自発的な行動意欲の増進を図る。

#### ② 本県の特徴を踏まえた「地域づくり」の推進

- ① 本県の自然的・社会的な条件を踏まえ、県民の生活水準を維持しつつ、環境への負荷が少ない地域づくりを推進し、県民にうるおいと安らぎを与える豊かな水環境の保全を図る。
- ② 手入れの遅れている森林や身近な里山など水源地域の保全については、上下流連携など流域全体での取り組みを進める。
- ③ 地域住民が自ら行動を起こし、自分たちの地域は自分達で保全、創造、利用、伝承し、さらに現状よりもより良い状態を伝え残せるような水の取り組みを推進する。

#### ③ 県民の諸活動と水循環系との調和を目指す「仕組みづくり」の推進

- ① 県民が水環境の価値を認識し、その保全と創造に向けて積極的に行動するための基盤を整備し、インターネット等による情報発信により全県的な規模での取り組みの誘導を図る。
- ② 自然との調和を目指した施策を推進するため、専門家の意見等を十分取り入れる体制づくりを図る。

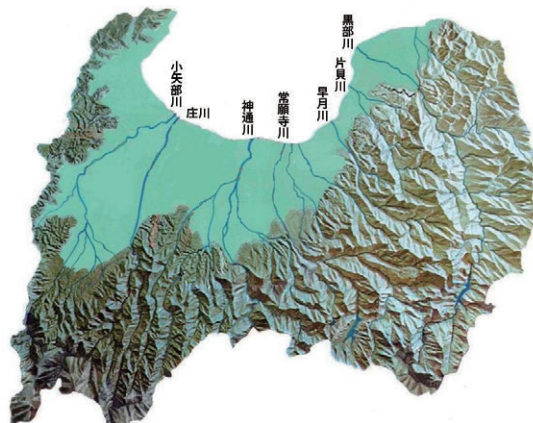
### (2) 流域ごとの特色

国が定める「水循環基本計画<sup>\*</sup>」では、流域単位を基本として、地方公共団体や事業者、団体、住民などの関係者が、現在および将来の課題や目指すべき姿などを共有し、連携しながら施策を推進するための「流域水循環計画」を策定することとしており、水ビジョンは、県全体をほぼ独立した1つの水循環系と捉えた「流域水循環計画」として、国に認定されている。

一方、県内には、小矢部川、庄川、神通川、常願寺川、早月川、片貝川、黒部川の7つの主要河川があり、それぞれの流域に独自の自然環境や文化などの特色や課題等があることから、これらにも十分配慮し、施策の展開を図る必要がある。

#### 小矢部川流域の概要<sup>\*1</sup>

小矢部川はその源を富山・石川県境の大門山に発



する幹川流路延長68km、流域面積667km<sup>2</sup>（富山県 高岡市、砺波市、小矢部市、射水市、南砺市、石川県 金沢市）の一級河川であり、中下流部は比較的緩勾配である。その流路は、庄川から運ばれてきた砂礫によってできた大扇状地の扇端を流れ、下流で大きく蛇行しており、隣接する庄川扇状地の堆積面が大きかったため、小矢部川によって形成された平野は狭い。

流域内には医王山県立自然公園、倶利伽羅県定公園、稲葉山・宮島峡県定公園、桜ヶ池県定公園などがあるほか、ミズバショウが群生する縄ヶ池周辺は、縄ヶ池・若杉自然環境保全地域に指定されるなど豊かな自然を有しており、長瀨峡の溪谷や不動滝などの景勝地も多い。

また、不動滝の霊水や鳩清水などのいわゆる「名水」も数多くあり、様々な言い伝えとともに受け継がれている。

地下水をあわせた豊かな水は、地域の営農を支えるとともに小矢部川第一発電所をはじめとする水力発電にも利用されており、下流部では、豊富な電力と水の恩恵を受け、400年近い歴史をもつ鋳物工業のほか、鉄鋼、繊維、紙、化学などの工業が発展している。

小矢部川は、大半が平野部を流れる「緩やかな河川」であり、砺波平野に流れる多くの河川や水路が流入し、また、湧水も豊富であることから、流域には独特の生物の生息環境が存在しており、これに十分配慮し、守っていく必要がある。

## 庄川流域の概要\*1

庄川はその源を岐阜県高山市の烏帽子岳と山中山の山中峠に発する幹川流路延長115km、流域面積1,189km<sup>2</sup>（富山県 高岡市、射水市、砺波市、富山市、南砺市、岐阜県 飛騨市、郡上市、白川村）の一級河川であり、我が国屈指の急流河川である。

上流域では、庄川峡に代表される溪谷が連続しており、御母衣ダム、小牧ダムのダム湖が周辺の山々と調和して、独特の景観を形成しており、また、河川に沿って階段状の河岸段丘が形成され、地下水が河川敷内のいたるところで湧水としてあらわれている。庄川流域には、瓜裂清水や弓の清水などの「名水」も数多く、生活用水としても大切にされている。

さらに、流域には、世界遺産に指定されている白川村、五箇山などの合掌集落があるほか、庄川合口ダム周辺には庄川温泉郷があり、庄川水記念公園では、毎年8月に庄川水まつりが開催されている。また、広大な扇状地に民家が点在する散居村の風景も地域特有のものであり、観光資源にも恵まれている。

庄川流域の豊かで清らかな水は、農業用水、発電用水として使用されるとともに、日本酒、五箇山豆腐など地域の名産品を生み、サケ、アユ、サクラマスなどの河川漁業を支えている。さらに、豊富な水と安価な電力を背景に、流域では金属加工産業も発展しており、特にアルミサッシ等の軽金属製品、銅、銅合金の鋳物は、全国トップクラスである。

上流の利賀川で建設中の「利賀ダム」は、事業検証のため、一時事業が凍結していたが、平成28年に事業継続が決定しており、早急な工事完成による効果発現が求められている。

また、都市化の進展等による排水の流出形態の変化から、広範囲にわたる水路の溢水や農地の湛水被害が多発したことから、現在、高岡市、砺波市、小矢部市、南砺市の約6,200haの農地を対象とした農地防災事業「庄川左岸地区」による水路改修や、調整池の造成などを進めているところであり、早急に事業を進捗し、被害の解消を図る必要がある。

### 神通川流域の概要\*1

神通川はその源を岐阜県高山市の河上岳に発する幹川流路延長120km、流域面積2,720km<sup>2</sup>（富山県 富山市、南砺市、岐阜県 高山市、飛騨市）の一級河川であり、我が国屈指の急流河川である。

中部山岳国立公園、宇津江四十八滝県立自然公園、神通峡県定公園などの優れた自然環境に恵まれており、上流域には奇岩が連なる「あじめ峡」や急峻な谷あいには滝群が見られる「宇津江四十八滝」、さらには、環境省の日本重要湿地500選であり、岐阜県の天然記念物に指定されている「<sup>あもつ</sup>天生湿地」などがある。

中流域では、美しい渓谷美が連続する「神通峡」が有名であり、大きく流れが迂回する「<sup>かたじきょう</sup>片路峡」と呼ばれる鋭いV字谷は雄大な景勝地となっている。

また、下流域においては、雄大な河川風景が広がり、散策やスポーツ、釣り等に利用されるなど河川が市民の憩いの場となっている。

神通川流域の水資源は、発電、農業用水のほか上水道用水、工業用水などに利用されており、地形的に有利な上流部で全体取水量の90%以上が発電用水として一旦取水された後、発電所を経て再び河川にもどり、下流で農業用水等に利用される。

下流部に位置する富山県は、水力発電で生まれる豊富な電力により、化学、重工業が発達し、日本海側最大の工業地帯となった。

かつて岐阜県飛騨市の神岡鉱山から排出されたカドミウムが神通川の水や流域を汚染し、日本の四大公害病の1つ「イタイタイ病」を発生させたが、昭和54年度から平成23年度に33年もの月日をかけて汚染農地の復元工事が実施されており、今後は、「イタイタイ病の恐ろしさ」や「克服の歴史」を語り伝えるなど、この公害を教訓として環境と健康の大切さを国内外に発信していく必要がある。

神通川は、県内で最も人口が集中する富山市中心部を通過していることから、流域内河川の浸水想定を見直すなどの防災対策が特に求められている。

### 常願寺川流域の概要\*1

常願寺川はその源を富山県富山市の北ノ俣岳に発する幹川流路延長56km、流域面積368km<sup>2</sup>（富山県 富山市、立山町）の一級河川であり、急流河川の多い我が県の一級河川の中で最も勾配が急な河川である。

上流域に標高3,000m級の立山連峰があり、大部分が中部山岳国立公園、有峰県立自然公園に指定されるなど豊かな自然を有しており、<sup>とんびやま</sup>鳶山崩れ、立山カルデラ、称名滝、弥陀ヶ原高原など特有の河川景観がみられる。流域内の標高差が大きいことから標高によって南方系と北方系の両方の植生がみられるほか、動物は山地部で国の特別天然記念物であるニホンカモシカ、ライチョウが、扇状地部ではイタチ、キツネ、ノウサギなどの小動物、魚類では、山地でイワナ、扇状地ではアユ、ウグイ、オイカワ、カジカ大卵型、アメドジョウ等の生息が確認されている。

常願寺川の水は、暮らしや産業に多様な形で利用されており、農業はもとより、3,000m級の山々からの豊富な融雪水を活用した水力発電、工業用水や上水道、消雪用水としても活用され、横江頭首工で取水された農業用水は、扇状地を網の目のようにはりめぐらされている各用水路に流れ、約7,900haもの農地を潤している。

1858年の大地震により上流の立山カルデラが大崩壊して以来、常願寺川は荒廃河川とな

り、水源山地から流出する土砂により洪水のたびに溢水破堤を繰り返<sup>いっすい</sup>し、下流に大きな災害をもたらした。長年にわたる治水・砂防事業により、現在、洪水のリスクは大幅に減っているが、引き続き、事業を推進し、流域の安全を確保していく。また、立山砂防の世界文化遺産への登録を目指し、その水や土砂との闘いの歴史や砂防施設が後世に継承されるよう取り組んでいく必要がある。

### 早月川流域の概要\*2

早月川はその源を劔岳に発する流域面積約134km<sup>2</sup>（富山県 魚津市、滑川市、富山市、上市町）の二級河川であり、我が国有数の急流河川に挙げられる「暴れ川」である。

広がる扇状地は急勾配であり、多くの川で見られるなだらかな川原は存在せず、中流域の勢いをそのままに富山湾に注ぎこむ。

早月川に生息する魚はゆるい流れを好むコイ科魚類が少なく、近隣を流れる川と比較すると魚種が少ない。また、冷水を好むニッコウイワナが河口域でもみられる。

大雨ごとに氾濫し、洪水を起こしたことから、人々はその水害や用水の取り入れに苦しんだ。水害よけの水神様信仰があり、それに関連した祭りが伝承されている。

昭和28年に着工した国営早月川農業水利事業は、こうした不安定な状況を解消するため、従来から早月川兩岸に設けられていた各用水の取り入れを合口化し、滑川市菟輪の早月川本流に造った堰堤<sup>えんてい</sup>で一括して安定取水するものであった。

さらに、扇状地は透水性が高く、水の低温による稲の生育障害がみられたが、粘性土を水に溶解させ、用水路から水田に流して耕土改良を行う「流水客土<sup>りゅうすいきまぐど</sup>」を行い、収量を増加させた。

一方、早月川水系の地形勾配は、水力発電に有利であり、大正年間から電源開発が進められた。特色のある発電所として、かんがい用水路を利用した早月発電所があり、これは、早月川沿岸土地改良区的全額出資で設立された早月川電力株式会社により、昭和55年に運転を開始されたものである。

早月川は毎年5月から6月ごろまでは雪解け水で水量が豊富だが、その後は水量が激減し、地下浸透も大きいことから、晴天が10日ほど続くと水不足になることも少なくなく、水の利用に際しては、関係者間での調整を十分に行う必要がある。

### 片貝川流域の概要\*3

片貝川はその源を北アルプスの毛勝山<sup>けちやま</sup>に発する幹川流路延長27km、流域面積169km<sup>2</sup>（富山県 魚津市、黒部市）の二級河川である。

上流域は、降雨、風化作用、雪崩などにより山地の侵食が著しく、土砂の生産が大変多い。僧ヶ岳中腹の窪地には約2,000m<sup>2</sup>の湿地「池の尻の池」が広がり、県の自然環境保全地域に指定されている。この湿地のミズバショウの純群落は、全国的にも珍しく、その周辺にはブナ、ミズナラなどが群生し、モリアオガエルやクロサンショウウオなど貴重な生物繁殖地となるなど豊かな自然を有する。

片貝川は我が国屈指の急流荒廃河川であり、古来より洪水の氾濫<sup>はんらん</sup>とそれに伴う河道の変遷を繰り返してきた。明治以前の記録に残った大災害は20回以上にもものほり、それ以降も20回近くの災害に見舞われ、昭和36年度から河川改修に着手している。

片貝川水系の河川水は、山地流域の豊富な水量と急峻な地形を活かし、古くから水力発電

に利用されるほか、かんがい用水などに利用されている。かんがい用水については、安定した取水を行うための合口化が進められ、黒谷頭首工で一括取水された用水が下流の農地約2,200haを潤している。

片貝川扇状地においては、黒谷頭首工下流部で、河川水の伏流により流量の少ない区間が発生しており、水の利用に際しては、関係者間での調整を十分に行う必要がある。

### 黒部川流域の概要\*1

黒部川はその源を富山、長野県境の鷲羽岳わしぼだけとする幹川流路延長85km、流域面積682km<sup>2</sup>（富山県 富山市、黒部市、立山町、入善町、朝日町）の一級河川であり、我が国屈指の急流河川である。

流域の7割近くが中部山岳国立公園等の自然公園に指定され、黒部峡谷に代表される豊かな自然を有しており、上流域には、十字峡、S字峡、猿飛峡など、国の特別名勝・特別天然記念物が点在し、下流域には扇頂部の愛本を要に、美しい扇状地が広がり、いたる所で湧水が自噴している。これらの湧水は古くから地域住民に利用され、暮らしの一部となっており、黒部川扇状地湧水群は、「全国名水百選」にも選定されている。

流域には、北アルプスを縦貫する「立山黒部アルペンルート」や、黒部峡谷の玄関口である宇奈月温泉など観光資源が豊富であり、平成30年10月には、富山県が取り組んでいる「立山黒部」世界ブランド化のプロジェクトの1つである「黒部ルートの一般開放・旅行商品化」について、関西電力との間で協定が締結されるなど、観光資源として新たな魅力が加わった。

黒部川の水は、主に農業と発電に利用され、農業にあっては、黒部川の流れの激しさから、かつて取水は困難を極めていたが、愛本堰堤が築かれたことにより、合口での取水が可能となり、現在は、安定した用水の確保が可能となっている。黒部川扇状地は耕土がレキ質土であったため、水がたまりにくく、水温も低いことから水田には適さない地域であったが、粘性土を水に溶解させ、用水路から水田に流して耕土改良を行う「流水客土」を行い、生産力を向上させた。

一方、流域には数多くの発電所が建設され、昭和37年には難工事で知られる黒部川第4発電所が完成しており、豊富な水と安価な電力は、アルミサッシ等の軽金属製品や出荷額世界一位のファスナー等の非金属製品の生産を発展させた。

黒部川ダム群の最下流部に位置する出し平ダムと宇奈月ダムでは、その機能の維持や下流域への土砂供給のため、平成13年から世界でも珍しい「連携排砂」が行われており、環境や利水への影響など、そのリスクを軽減するため、関係者間の協議・調整による適正な管理のもとでの実施が必要である。

また、流域市町では、豊富な「水」をテーマとしたまちづくりを進め、地域の活性化を図ろうとする構想をもっている。

### その他の地域

県北西部の端、能登半島の基部に位置する水見市は、北、西、南の三方を標高300～500mの低い丘陵に囲まれ、これを水源とする阿尾川あおがわ、余川よかわがわ、上庄川かみしょうがわ、仏生寺川ぶっしょうじがわなど多くの短い河川が東方の富山湾に向けて流下している。五位ダムができる以前は河川の水量が乏しかったため、農地に用水を補給するための「ため池」が多く、現在も大小1,200箇所余りの「た

め池」が存在する。万尾川<sup>もおがわ</sup>で国指定天然記念物であるイタセンパラの生息が確認されたほか、十二町瀉<sup>じゅうにちょうがた</sup>のオニバスや乱橋池<sup>みだればしがいけ</sup>のトンボ類など、環境省の「絶滅のおそれのある野生生物」に指定された希少生物が数多く生息しており、これらの生息域を守っていく必要がある。

また、庄川と神通川に挟まれた富山湾沿い、高岡市と射水市にまたがる射水平野（東西約11km、南北約7km）は、極めて平坦で大部分が低平な低湿地であり、かつて人々は常習的な排水不良に悩まされていたが、現在は、国営農業水利事業などの排水改良により、農地は肥よくな乾田に生まれ変わり、北部砂丘内側<sup>ほうしゅうづがた</sup>にあった放生津瀉<sup>ほうせいしんがた</sup>を掘り込み建設された「富山新港」周辺は、臨海工業地帯として発展している。このベイエリアは県内有数の観光スポットにもなっており、さらなる活性化が望まれる。

- (参考資料) \*1「各水系河川整備計画」：国土交通省  
 \*2「霊峰劔岳を源とする清流 早月川沿岸用水」：早月川沿岸用水歴史冊子編纂委員会  
 \*3「片貝川水系河川整備計画」：富山県

### (3) SDGs (持続可能な開発目標) ※との関連

2015年9月の国連サミットにおいて、世界が2016年～2030年に達成すべき、貧困や飢餓の根絶、水と衛生の利用可能性と管理の確保、再生可能エネルギーの利用、気候変動への対策、陸域生態系や森林資源の保全など17の環境や開発に関する国際目標SDGs (持続可能な開発目標) が採択された。

水ビジョンの方向性は、SDGsに合致しており、例えば、水源や水質に関する施策が「6安全な水とトイレを世界中に」などの目標に関連するほか、治水・利水施設の長寿命対策は「11住み続けられるまちづくりを」、小水力発電は「7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、生物多様性は「14 海の豊かさを守ろう」や「15 陸の豊かさも守ろう」、さらに環境教育や異常気象、食料に関するものはそれぞれ「4 質の高い教育をみんなに」、「13 気候変動に具体的な対策を」、「12 つくる責任つかう責任」に関連するなど、様々な分野で関連性があることから、引き続き、SDGsの考え方にも配慮して、施策を推進する必要がある。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



ロゴ：国連広報センター作成